

# 注目！がん看護における最新エビデンス

## 緩和ケア医は白衣を着るべきか？ カジュアルな服装がよいのか？

Challenging the Status Quo of Physician Attire in the Palliative Care Setting.  
Azhar A, Tanco K, Haider A, Park M, Liu D, Williams JL, Bruera E. Oncologist.  
2020; 25 (7) : 627-37. doi: 10.1634/theoncologist.2019-0568.

以前に、緩和ケア医から「ご家族から『先生がいつもカジュアルなセーターで診察に来てくれたのがよかった』と言われ、『え、そこ？（一生懸命症状コントロールしたのに）』と思ったことがある」と聞いたことがあります。服装は、医師と患者・家族の信頼関係などに影響するのでしょうか？今回紹介する研究は、実験心理学という方法を用いてこの問題に取り組んだものです。

米国で行われたこの研究では、153人の患者がランダム化されました。ランダム化の方法は若干複雑なのですが、**写真**のようにネクタイをつけ白衣をまとった医師と、ブルーのカジュアルなシャツを着た医師、服装だけが違うこの2人の医師に対する外来セッティングの3分間ビデオをランダムに見てもらい、個々のビデオの後に2人の医師に対する印象をアンケートで回答してもらいました。ランダムに分けているので、ビデオを見る順番などの影響が全体では等しくなります。

結果として、服装によってコンパッション（日本語訳が難しい単語で、慈悲、哀れみ、



宮下光令 教授

東北大学大学院 医学系研究科  
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

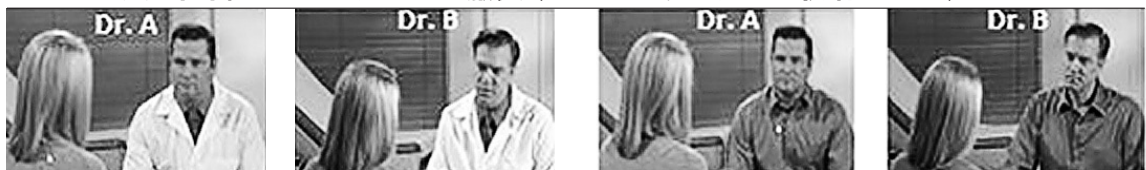
みやしたみつりのり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業。臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

同情などと訳されますが、このケースでは「自分を理解して寄り添ってもらえる医師だと思えるか」でしょうか）とプロフェッショナルリズムの程度には統計的に有意な差はありませんでした（それぞれ、 $P=0.31$ 、 $P=0.42$ ）。また、どちらの医師を好むかという質問には30%が白衣、31%がカジュアル、38%がどちらも同じという回答でした。サブグループ解析の結果、性や年齢、学歴などによる違いも認められませんでした。

この研究の背景には、コミュニケーションスキル・トレーニングなどでは、医師はまずきちんとした服装をしないと教育されることがあります。患者の服装に関する選好はさまざま、もう少し研究が必要だろうという結論でした。

このように、実際の状況でランダム化をすることが難しい場合に模擬的な状況を設定する、ビデオを見てもらうなどで研究する手法を「実験心理学」と言います。著者のメンバーであるBrueraらは、過去にも実験心理学の手法で「緩和ケアチームの診察時は、立って話すより座って話した方がよい」<sup>1)</sup>、「悪い

### 《写真》2人の医師と2つのタイプの服装（これらがランダムに視聴された）



知らせを伝える時にも、立って話すより座って話した方がよい」<sup>2)</sup>、「医師は治療情報について悲観的に話すより、楽観的に話した方がよい」<sup>3)</sup>などの結果を示しています。最近では我が国からも同様の手法で「(平均余命が2年くらいの多発性転移のシチュエーションで) 予後の告知は明確に伝えた方が、あいまいに伝える方がよい」<sup>4)</sup> という結果が報告されています。実験心理学的手法で得られた結果が、実際の状況にどこまであてはまるのかは分かりませんが、比較的容易にできますので、看護ケアでももっと活用されてもよい方法だと思います。

服装に関しては、医師のキャラクターとどう関係するのも興味深いです。外来でいつもきっちりしていた医師がセーターを着て毎

日来てくれたら、なんだか親しみを感じるかもしれませんね。看護師の白衣や化粧、アクセサリーはどうでしょうか？

#### 引用・参考文献

- 1) Strasser F, Palmer JL, Willey J et al. Impact of physician sitting versus standing during inpatient oncology consultations : patients' preference and perception of compassion and duration. A randomized controlled trial. *J. Pain Symptom Manage.* 2005 ; 29 (5) : 489-497.
- 2) Bruera E, Palmer JL, Pace E et al. A randomized, controlled trial of physician postures when breaking bad news to cancer patients. *Palliat. Med.* 2007 ; 21 (6) : 501-505.
- 3) Tanco K, Rhondali W, Perez-Cruz P et al. Patient Perception of Physician Compassion After a More Optimistic vs a Less Optimistic Message : A Randomized Clinical Trial. *JAMA Oncol.* 2015 ; 1 (2) : 176-183.
- 4) Mori M, Fujimori M, van Vliet LM et al. Explicit prognostic disclosure to Asian women with breast cancer : A randomized, scripted video-vignette study (J-SUPPORT1601). *Cancer.* 2019 ; 125 (19) : 3320-3329.